



スイス再保険会社、2009年第2四半期決算を発表

- AA格付けに相当する余剰資本を45億スイス・フラン上回る
- 2009年第2四半期は3億8,100万スイス・フランの純損失
- レガシーポートフォリオのリスク削減は大きく前進

本件に関するお問い合わせ

スイス再保険会社 日本支店
コーポレートコミュニケーションズ
横田 真紀

Tel 03 3272 4888
Fax 03 3271 0990
www.swissre.com

チューリッヒ、2009年8月5日—スイス再保険会社(以下、スイス・リー)は、2009年第2四半期に資本基盤をさらに強化し、AAの格付けに相当する余剰資本を45億スイス・フラン上回る見込みです。また、グループのレガシー部門におけるポートフォリオのリスク削減も大きく前進しました。基盤となる主要事業で、ヘッジおよび減損による評価損失により収益が相殺され、当期は3億8,100万スイス・フランの純損失を計上しました。

スイス・リーの最高経営責任者であるシュテファン・リップペは次のように述べています。「今期は損失を計上しましたが、主要事業で引き続き強固な引受成績および収益を収めました。最も重要なこととして、資本基盤強化のためにとった措置が功を奏し、AA格付けに相当する余剰資本が大幅に増加したことが挙げられます。また、クレジット・デフォルト・スワップの契約のほぼすべてを解約したことにより、レガシー部門におけるポートフォリオのリスク削減を大きく前進させました。これらの施策により、目標を達成できると確信しています」

堅調な基盤収益にもかかわらず損失を計上

2009年第2四半期は、前年同期の5億6,400万スイス・フランの純利益から3億8,100万スイス・フランの純損失となりました。1株当たり利益は-1.13スイス・フランとなりました。

純損失は主に3つの要因によるもので、堅調な主要事業の収益を相殺する形となりました。第一に、社債のヘッジにより11億スイス・フランの評価損失がもたらされました。これらの社債の未実現利益19億スイス・フランは株主資本には反映されますが、純利益には反映されません。第二の要因は、主に証券化商品による6億スイス・フランの減損です。第三の要因として、当期においてスイス・リーの信用スプレッドは大幅に改善しましたが、特定の財務負債について自己の信用スプレッドを計上することが求められるUS GAAPの要件により、当期の純利益中4億3,100万スイス・フランが影響を受けたことが挙げられます。

2009年6月末における株主資本は、2009年3月末の236億スイス・フランから、238億スイス・フランとなりました。株主資本利益率は、年率換算で第1四半期の2.9%から-7.4%、普通株1株当たり簿価

は、2009年第1四半期末の61.39スイス・フランから60.69スイス・フランとなりました。

6月末現在、AA格付けに相当する剰余資本を45億スイス・フラン上回りました。

損害保険事業は優れた引受実績

損害保険事業の2009年第2四半期の営業利益は、2008年第2四半期の9億スイス・フランから増加して、10億スイス・フランとなりました。コンバインド・レシオは、前年同期の91.0%(割引控除を除くと89.0%)から、89.4%(割引控除を除くと87.6%)へと改善しました。これは、主に厳正な引受および厳格なコスト管理によるものです。

生命・医療保険事業には市場の影響

生命・医療保険事業は、2008年第2四半期には5億3,500万スイス・フランの営業利益を計上しましたが、今期は1,000万スイス・フランの営業損失を計上しました。前年同期比で保険料収入および手数料収入は若干増加したものの、変額年金ビジネスの廃止により大きな打撃を受けました。これは、主にグループの信用状態が向上したことによる時価評価の影響を受けたためです。当四半期中にスイス・リーの信用スプレッドが縮小したことが、3億7,500万スイス・フランの評価損失につながりました。クレーム・レシオは前年同期の77.5%から78.6%に上昇しました。これは伝統的生命・医療保険分野での前年の良好な死亡率および罹患率経験を反映したものです。クレーム・レシオは引き続き堅調に推移しています。

アセット・マネジメントは引き続きリスク削減に注力

当期の投資収益率は、前年同期の2.9%から0.5%に低下しました。これは主に社債ヘッジおよび減損費の影響によるものです。スイス・リーは社債に対する慎重な姿勢を維持し、投資ポートフォリオにおける現金、短期投資、政府保証証券などリスクの低い資産クラスへの投資配分を高めました。

レガシー部門のリスクは大幅に減少

レガシー部門は、2009年第2四半期に7,100万スイス・フランの営業利益を計上しました。さらに、同部門はそのリスク削減計画の重要な一歩として、ポートフォリオに残存するクレジット・デフォルト・スワップ契約のほぼすべてを解約し、それに相当するレガシー部門のポートフォリオの名目エクスポージャーを、2009年3月末の139億スイス・フランから6月末には8億4,200万スイス・フランへと減少させました。

更改は成功裏に完了

再保険市場の環境は、今期も改善が続きました。生命保険事業のいくつかの分野(特に米国)および自然大災害市場において大幅な進歩が見られます。一方で、市場の軟化は減速したものの、改善がまだ見られない分野もいくつか存在します。2009年7月の特約再保険更改で、スイス・リーは4%の再保険料率アップを達成しました。これは、新種保険からより利益率の高い非比例財物保険事業への移行、および緩やかな市場の硬化によるものです。さらに重要な点として、長期的収益性を十分に引き上げることに成功しました。全体として、2009年前半の更改からは、顧客関係が強固であること、また顧客に求められる資本軽減策を提供する十分な能力を備えていることが明らかになりました。

経営効率向上の目標を踏まえて

当期は、スイス・リーの経営効率向上プログラムの重要なマイルストーンとなる目標をいくつか達成しました。世界の拠点・ネットワークを最適化し、世界73カ所のオフィスのうち14カ所を閉鎖しました。これによりサポート機能が地域拠点に集約され、より効率的な顧客サポートが可能になりました。これらの対策により、2009年前半には、再編にかかる費用を除いた運営経費を3億スイス・フラン削減しました。再編にかかる費用を含めた経費では、2009年中の当初の目標であった1億スイス・フランを上回る1億5,000万スイス・フランの節減が可能になると予測しています。

今後の見通し

スイス・リーは資本増強を成功裏に完了し、お客様に信頼されるパートナーであり続けます。損害保険事業では、緩やかな料率上昇が続くと予想しています。引受年度のコンバインド・レシオは、自然大災害が想定範囲内であれば目標の95%を上回る見込みです。しかしながら、経済を取り巻く環境は依然として不透明であり、投資およびレガシー部門におけるポートフォリオは、市場のボラティリティに左右されます。金融市場のボラティリティ、またスイス・リーのエクスポージャーを大幅に削減することを可能にした低リスク投資への移行により、将来の収益に悪影響が及ぶ可能性があります。

シュテファン・リップペは最後に次のように述べています。「基盤となる経営環境の見通しは明るく、資本に見合う利益が見込まれるビジネスに対し十分なキャパシティを提供する能力があると確信しています」

スイス再保険会社について

スイス再保険会社(略称「スイス・リー」)は、世界をリードする再保険会社です。当社は世界 20 カ国以上で事業拠点を展開しています。

1863 年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にする金融商品を提供しています。伝統的な再保険商品と損害および生命・医療保険関連サービスは、包括的なリスク管理のための保険をベースにしたコーポレート・ファイナンス・ソリューションとその付加サービスによって補完されています。スイス・リーはスタンダード&プアーズから「A+」、ムーディーズから「A1」、A.M. Best から「A」の格付けを取得しています。